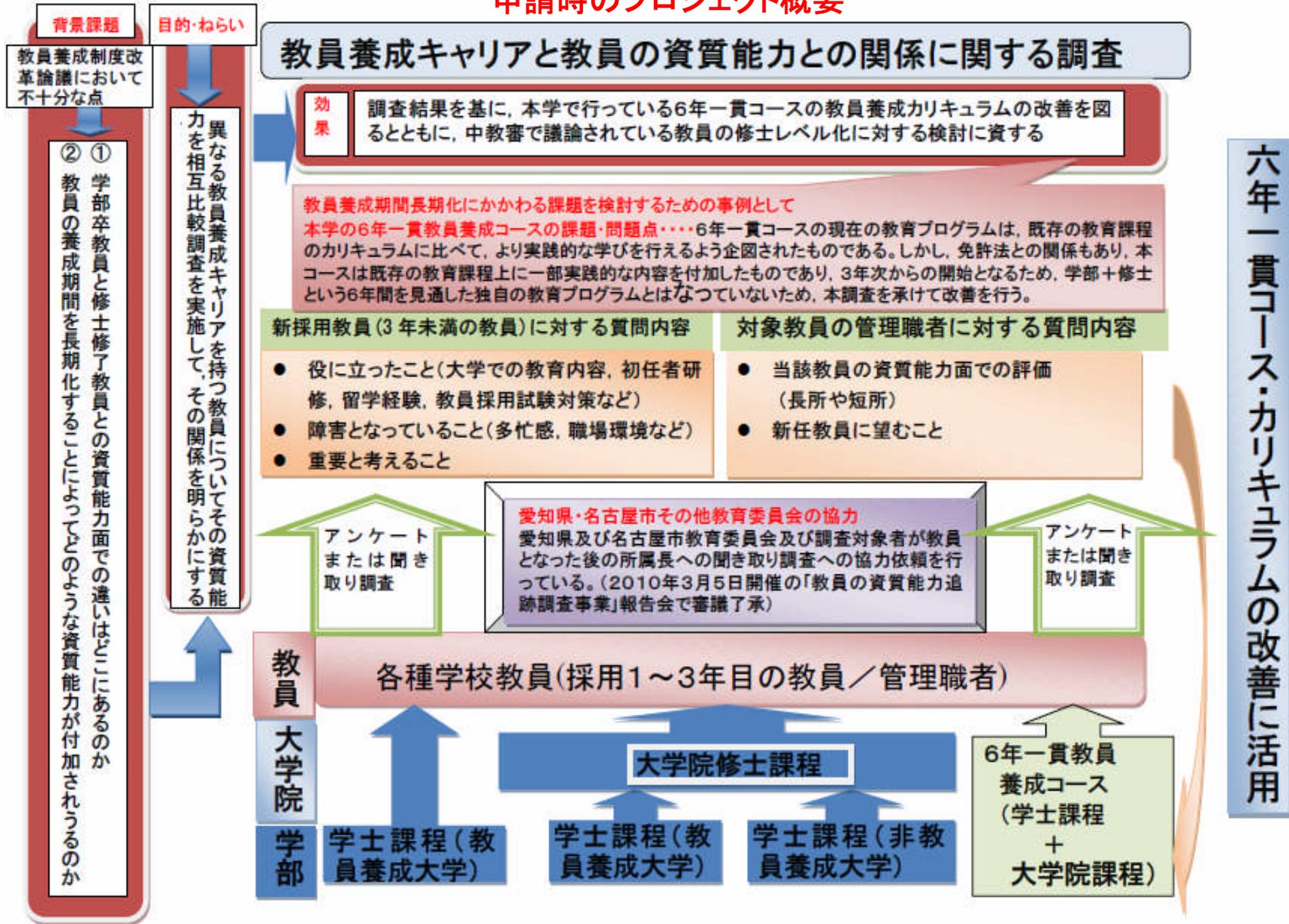


申請時のプロジェクト概要



調査のねらい：異なる教員養成キャリアをもつ教員についてその資質能力の相互比較を実施して、その関係を明らかにする。(教員養成制度改革論議において議論が不十分な点) ①学部卒教員と修士卒教員との資質能力面での違いはどこにあるのか②教員の養成期間を長期化することによってどのような資質能力が付加されるのか。

教員養成制度改革・大学改革の動向 [教員の修士レベル化をとりまく状況] にみる資質能力のイメージ
 ・2012.5「教員の資質能力向上特別部会・審議のまとめ」
 ○教職に対する探究力/高度な知識・技能/総合的な人間力(コミュニケーション力、連携・協働できる力)
 ○教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力/新たな学びを展開できる実践的指導力(教委と大学の連携)
 ・2012.3「大学分科会・審議のまとめ」
 ○主体的に学ぶ力/答えのない問題に最善解/学生同士が切磋琢磨/双方向の課題解決型の授業

効果1:教員養成制度改革へ向けた実証的データの獲得

予測される効果：

効果1：教員の修士レベル化を中心とする教員養成制度改革の議論に対して、実証的データにもとづいた検討が可能となる。

効果2：本学大学院におけるカリキュラム改善、新入生および卒業生のキャリアデザインのための基礎的資料を得る。

効果3：採用後に重要となる資質能力が明らかになることで、現行の教員免許状更新講習等の大学における現職研修プログラムの開発が可能となる。

- ◆6年一貫コース：実践力(問題解決能力・自己実現能力・企画運営能力)となる総合的な学びを創造/幅広い視野・教養・実践的なコミュニケーション能力/学ぶ機会を計画/T・TやT・Aの実践
- ◆教職大学院：専門的知識と実践的学び/学校サポーター・教師力向上実習/多様なフィールド実習(企画力・計画力・人間関係力)/ファシリテーター・ミドルリーダーとしての素地

効果3：大学における現職研修プログラムの開発

聞き取り調査 アンケート調査

採用30年目				1-3
採用20年目				
採用10年目				
採用5年目				
採用3年目				1-2
採用2年目				1-1
採用1年目				1-4

(将来予測)

1-5
校長・教頭

調査の手続きと方法：

1 実証的研究

内容	調査方法	実施時期
1-1: 類型Ⅰの教員に対する、採用1年目から3年目の経年調査。(予備的調査)	聞き取り調査 ○4名	22年度* 24年度 (6-7月)
1-2: すべての類型の採用10年目までの教員に対する調査。	アンケート調査。 ○700~800名。(予定)	24年度 (9月-10月)
1-3: 類型ⅠⅡの採用10/20/30年目の教員に対する調査。	聞き取り調査。 教員免許状更新講習で協力者を募集。 ○各経験年数ごとに10名、計30名。	24年度 (9月-12月)
1-4: すべての類型の採用3年目までの教員に対する調査。	聞き取り調査。 ○80~100名。類型ごとに約20名。	24年度 (7月-3月) 25年度 (4月-8月)
1-5: 管理職(校長・教頭)に対する調査。	アンケート調査・聞き取り調査。	25年度 (5月-8月)

*「教員養成課程改善のための追跡調査」による実施

2 開発的研究

内容	実施時期
2-1: 上記の成果全体を、教員の修士レベル化に対する検討に活用する。	24・25年度
2-2: 1-2 および 1-4 の成果を、本学大学院のカリキュラムの改善に活用する。	25・26年度
2-3: 1-2 とくに 1-4 の成果を、本学大学院の新入生および卒業生のキャリアデザインに活用する。	25・26年度
2-4: 1-3 の成果から、大学における効果的な現職研修のプログラムを開発する。	25・26年度

【本学における教員養成の類型】

- 類型Ⅰ：学士課程卒業
- 類型Ⅱ：学士課程(教員養成大学)卒業⇒教育学研究科修了
教員養成大学卒業
非教員養成大学卒業(一部は小免コース)
- 類型Ⅲ：学士課程(教員養成大学)卒業⇒教育実践研究科修了
教員養成大学卒業
非教員養成大学卒業
- 類型Ⅳ：6年一貫教員養成コース(学士課程+大学院修士課程)

6	大学院	教育学研究科 (1977~)	教育実践研究科 (2008~)	6年一貫教員養成 コース(2006~)
5	修士課程			
4		類型Ⅰ	類型Ⅱ	類型Ⅳ*
3	学部	学士課程 (教員養成大学)	学士課程 (教員養成大学 ・非教員養成大学)	
2				
1				

効果2:大学院課程のカリキュラム改善への活用

*統計処理上、比較の観点からは類型Ⅱの一部としても扱う。